

5日目 4月23日

会 場: 松江市営球場

第1試合	~3回戦~ (6回コールド)																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
邇 摩	0	0	0	0	0	0										1	2	2		
開 星	6	0	0	4	0	1x										11	8	1		
(投手-捕手)																				
・ (邇)	森→松尾→品川→松尾→神在 - 白石																			
・ (開)	百合澤→田原 - 吉川																			
	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (邇)																				
・ (開)	井上、金森																			
(審判) [球審] 筑後 [一塁] 瀧隆 [二塁] 三宅 [三塁] 林																				
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(邇)	22	2	1	0	0	0	7	3	1	0		0			2	2	0	0		0
(開)	35	8	11	0	0	2	1	11	2	4		2			1	0	0	0		0

開 星 11 対 1 邇 摩

天 候	曇り
グラウンド 状況	良好

試合時間	9:55~11:35(1時間40分)
風	無風
	1回裏、本塁からセンター方向、弱風 2回裏、本塁からレフト方向、微風
備 考	球速は場内のスピードガンの表示を記載している。

試合展開について

開星打線が邇摩の小刻みな継投にどれくらい対処できるかが見所。
初回到開星打線が爆発した。真ん中付近の直球に狙いを絞り、甘い球を悉く本塁打にした。その後も真ん中付近の直球を狙い集中打で得点を重ねた。

投手情報

開 星	邇 摩
<p>先発は2年生の百合澤が5回途中まで投げた。左上ややスリークォーター気味から角度のある球を投げる。フォームは背中がやや見え、後ろ腕がテイクバック時に丸見えになる。直球(Max132km/h、常時127km/hくらい)、スライダー(斜め、105~110km/h)、カーブ、チェンジアップ(ツーシームかも、122km/h)、カット?(122km/h、ナチュラルか不明)を確認した。制球は時々荒れることがあり、4回で3四死球と多い。常に厳しいコースに投げられている訳ではなく、横幅が真ん中付近に集まることもある。1塁牽制が上手く、3回に2連続で1塁牽制で走者を刺している。さらに、1塁走者は逆をつかれる場面が目立った。牽制は顔を1塁へ向けてクイック本塁へ、速い牽制、脚を上げて走者を焦らす間を持つ牽制の3種類くらいがある。</p> <p>2番手は田原が5回途中から6回を投げた。右横手1塁プレートから投げってくる。直球(124km/h)、スライダー(横斜め小さい曲がり、108~112km/h)、シンカー(115km/h)を投げる。この試合では直球で押すことが多かった。直球は両サイドに投げるが、3球投げたスライダーは何れもD~Bと一方に偏っていた。走者を背負わなかった為、クイックや牽制、制球の変化などは不明。</p>	<p>森が先発し、1回を投げきれず打ち込まれ降板した。右上から直球(116km/h)、カーブ(100km/h)、ツーシーム(112km/h、ナチュラル?)を投げる。変化球はカーブが主。この試合では変化球でストライクが取れず、甘く入った直球を狙われた。また、三四死球と制球面では散々だった。</p> <p>2・4番手は松尾で1回と4回の残りを投げた。右上から直球(111km/h、手元で沈む)、スライダー(横、106km/h)、カーブ(斜め、92km/h)を投げる。変化球はストライクに来ることが殆ど無かった。</p> <p>3番手は品川で2回から4回途中まで投げた。右上から直球(125km/h)、スライダー(横斜め、105km/h)、カーブ(縦斜め、95km/h)を投げる。制球はストライクが精一杯で、四死球5と多い。2・3回は変化球でストライクが奪えず、直球頼りになった。4回は変化球でもストライクが入り始めたが、相変わらずボール先攻だった。</p> <p>5番手は神在で残り全てを投げた。右スリークォーターから直球(113km/h、シュートきつい)、カーブ(90km/h前半)、ツーシーム(100km/h前半)、スライダー(1球のみ、99km/h)を投げる。3塁側プレートを踏むため、右打者は入ってくる球にゴロを増やさないよう注意が必要。</p> <p>全投手とも、直球狙いの真ん中(幅)狙いで攻略できる。脚を絡めると、なお良い。</p>

攻撃

開 星	邇 摩
<p>秋からスタメンが大幅に入れ替わり、1・2年生が積極的に起用されていた。更に、途中から遊撃手に入った山西は秋は左打者だったが、春は右打者となっており、両打ちの可能性はある。</p> <p>投手を含め1・3・4・5・8番が左打者でバランス良く散らしつつ、クリーンナップに固めて配置している。この試合ではエース金森が一塁を守備していたため、先発する投手により変動する可能性がある。</p> <p>攻撃の型は、盗塁が多くエンドランとなっているものも結果的な可能性が高い。しかし、走者に迷いがあるのか、初回に小田原が2盗で1・2塁間で一瞬躊躇して止まる場面があった。バントは確実に構えて送ってくる。走者では代走で登場した杉本は盗塁のスタート(特に3盗)はスタートが完全に盗んでおり、動きが良く脚も速いため要警戒。</p> <p>打撃は全体で変化球を捨て、直球に狙いを絞っていた(ストライクに来たのが殆ど直球のみ)。コースは真ん中付近に入った球を狙っていたが、相手投手の球速が遅かったため、インコースの厳しい球を振ることもあった。最初のストライクは1/2の確率で振ってくる。振っていないのは、変化球でストライクが来た時と外角へ投げきった時だった。井上と金森は全て最初のストライクはスイングしている。当たっている金森は真ん中から外寄りの直球に強い。</p>	<p>初戦と同じスタメンで先発投手の違いによる守備位置のみ変更があった。右打者のみの打線だ。</p> <p>攻撃は犠打で送ることが主で、脚を絡めた攻撃は無かった。しかし、3回に1塁走者が立て続けに牽制死をするなど、鍛えられていなかった。1塁走者に限ると、相手左腕の牽制が上手く逆をつかれる、牽制で危ない場面が多く見られた。</p> <p>打者は早いカウントでスイングすることが多く、ストライクを投げれば早いカウントで決着することが多かった。</p>

守備

開 星	邇 摩
<p>シートノックではボール回しは鍛えられていたが、ノックになると送球は怪しい送球があった。外野手は肩は県内では強いが高い送球も多かった。一方で中継の内野手は丁寧にワンバウンドでストライクを投げていた。</p> <p>三塁手を守っていた井上は守備の動きが悪く、セフティーバントなどで揺さぶるのも面白い。</p>	<p>複数ポジション守れる選手が多い。シートノックでは外野手の送球が高いことが多かった。</p>